

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 瀬戸内市

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 現在の人口：36,048人、将来：33,192人（2030年）、24,524人（2060年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
- 地域の総合計画に示された将来人口目標 現状：36,048人→目標：33,392人（2030年）、27,253人（2060年）
- 地域の環境分野の上位計画の将来目標 行政活動に伴う二酸化炭素排出量 現状：11,185t→目標：7,866t（2030年）

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- SDGsカードゲームの実施：市内小中学校等で出前授業を実施（市・邑久高校・アスエコ・市民）
- 地域主体による取組の推進：地域主体で出前授業を実施できる体制づくり（市・邑久高校・アスエコ・市民）
- 地域課題解決アイデアの実現：異業種交流などによるアイデアの実現（市・企業・地域コミュニティ等）

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ ●子ども達の社会参画意識をもった地域
子ども達が地域課題や資源に気づき、社会参画意識を持てるよう、関係者が協力して取り組む。

●地域資源を有効活用した自立・持続的なまちづくりが行われている地域
地域固有の資源（人・モノ・環境）を有効活用し、個々が幸福を感じ、持続可能なまちづくりに取り組む。

●地域内で経済が循環している地域
地域固有の資源を活用した取組により、市外から資金を獲得するとともに、地域内経済循環を目指す。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	地域の取組	SDGs達成のために行動を起こしている市民の割合	-	20.0	27.1	%
	地域の取組	日常生活で省エネ実践している市民の割合	75.0	77.0	71.9	%
経済	地域の取組	自らの力で地域を改善していけるまちを実感している市民の割合	35.7	38.8	52.5	%
社会	郷土への愛着・地域の誇り	出前授業・出前講座開催回数	-	10	10	回
	郷土への愛着・地域の誇り	「住んでいることを誇れるまち」の実感度	52.9	55.4	51.1	%
	関係人口	ファンクラブ数	1,722	2,000		人

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	地域の取組	SDGs達成のために行動を起こしている市民の割合	-	20.0	2030年度	80.0	%
	地域の取組	日常生活で省エネ実践している市民の割合	75.0	77.0	2030年度	85.0	%
経済	地域の取組	自らの力で地域を改善していけるまちを実感している市民の割合	35.7	38.8	2030年度	50.0	%
	経済活性化	子ども達のアイデアの実現事業数	0	0	2030年度	10	個
社会	郷土への愛着・地域の誇り	地域ファシリテーターの数	0	0	2030年度	30	人
	郷土への愛着・地域の誇り	「住んでいることを誇れるまち」の実感度	52.9	55.4	2030年度	65.0	%
	関係人口	ファンクラブ数	1,722	2,000	2030年度	5,000	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

まずは、市民へのSDGsの認知を図るとともに、カードゲームの開催を通じて、子ども達の社会参画意識とシビックプライドを醸成する。また、取組を継続することで、関係人口を増加させるとともに、子ども達の参画による新たな事業を創出し、経済の活性化と域内循環を目指す。この取組を継続することで、ローカルSDGsと持続可能なまちづくりを達成する。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください